

2011.3.27.

信濃毎日新聞より

松本の医師や看護師ら 義援金集め

松本市の松本協立病院と関係医療機関の医師、看護師、事務職員ら30人余が26日、松本駅前で東日本大震災被災者のために義援金を集めた。写真。同僚は宮城県内の



病院で支援活動を継続中。現地でも撮影した写真パネルを掲げ、被災状況や支援内容も紹介した。

浦沢剛さん(34)は「中上ひまわり薬局事務職員」は13、17日、支援チームの第1陣として現地へ。病院で、患者の名前や住所を聞き取ったり、待機場所へ誘導したりした。来院する人は負傷者だろうとの予想に反し、津波で薬が流されたり、かかりつけ医が被災して行き場がなくなった内科患者が多かったという。

浦沢さんは「人工透析ができない、糖尿病治療のインスリンがない」と、助けを求めてくる人がいた。人手と資金の継続的な支援が必要だ」と話していた。